

慢性痛
急性痛

藤井洋泉先生の今月のカルテ

vol.89

ペインクリニックの現場から



■プロフィール ふじい・ひろみ 平成2年岡山大学医学部卒業後、同大学医学部麻酔科蘇生科入局、岡山労災病院麻酔科、岡山大学医学部附属病院麻酔科蘇生科などを経て平成19年から現職。日本麻酔学会指導医。日本ペインクリニック学会認定医。現在、国際疼痛学会、日本麻酔学会、日本ペインクリニック学会、日本慢性疼痛学会などに所属

梶木病院麻酔科・ペインクリニック科の香曾我部義則先生と藤井洋泉先生が、痛みの治療や緩和についての情報を届けてくれる「ペインクリニックの現場から」。今回は、がん性疼（とう）痛に対するブロック治療の中で、上腹部の痛みに対して行なわれる腹腔神経叢（そう）ブロックについて藤井先生が話をしてくれま

腹腔神経叢ブロックを伝える交感神経の神経は、硬膜外ブロックで痛むは、世界保健機構（WHO）の治療指針でも推奨されるブロックです。腹腔神経叢は、胃、脾臓（すいぞう）、肝臓、脾臓（ひぞう）、小腸などの痛みを伝える交感神経の神経は、硬膜外ブロックで痛むは、世界保健機構（WHO）の治療指針でも推奨されるブロックです。腹腔神経叢は、胃、脾臓（すいぞう）、肝臓、脾臓（ひぞう）、小腸などの痛みを伝える交感神経の神経は、硬膜外ブロックで痛むは、世界保健機構（WHO）の治療指針でも推奨されるブロックです。

みは、まず腹腔神経叢に伝えられ、そこから内臓神経を経由して脊髄に入り脳へと伝えられます。適応は、上腹部・背部痛で、胃、肝臓、脾臓、脾臓、胆のう、小腸、結腸の右半分のがん性疼痛、また大動脈周囲のリンパ節転移によるがん性疼痛です。腹腔神経叢ブロックを試みて良い状態

上腹部・背部のがん性疼痛に適応 WHOの治療指針でも推奨される「腹腔神経叢ブロック」

レントゲン透視の下に、背中から針を刺す方法を行っています。事前に主治医に話しておいた方がよいでしょう。

当院で行っている方法でブロックの流れを説明します。ブロックは1泊2日の入院で行います。体位は腹臥（が）位（腹は）で、レントゲン透視の下にブロック針を背中から6〜7cm外側に刺します。第1腰椎の側面に針を当てて、そこから椎体をすべらすように椎体の前面まで進めます。そこで、造影剤と局所麻酔薬の混合液を注入し、造影剤がほかの場合に広がらず、20分後に皮膚の知覚にまひがなければ、神経破壊薬（99%エタノール）を注入して終了です。お酒が飲めない

人は、アルコールにより背中から針を刺す方法を行っています。事前に主治医に話しておいた方がよいでしょう。

上腹部・背部のがん性疼痛に適応 WHOの治療指針でも推奨される「腹腔神経叢ブロック」

30355649